

単元名：せかいに一つだけの絵本を作って、学校みんなに読んでもらおう！

教材名：絵を見てお話を書こう（東京書籍 二上）

1 日 時 令和2年12月10日（木） 第2校時（9：20～10：05）

2 学 年 第2学年1組 27名

3 単元について

単元及び教材について

- 本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）の第1学年及び第2学年「知識及び技能」（1）オ及び「B 書くこと」（1）エを受けて設定したものである。

本単元では、語句を集めること（量の充実）と、語句の仲間分け、関係付けをすること（質の充実）により、語彙の量と質の一体的な充実を図ることをねらいとする。

- 本教材は、起承転結の「起・承・結」の絵と文を手掛かりに、「転」の場面を想像して物語を創作するもので、児童が自由な発想をすることができ、多様な表現を引き出し、場面にふさわしい語句を使うために、語句を集めたり、選択・吟味をしたりすることに適している。

児童の実態

- 毎日、宿題として課している日記では、経験したことや見たことの羅列のみで終わっていて様子が伝わりにくい文章や、自分の感情を「楽しかった」「嬉しかった」という平易な語句ばかりでまとめる傾向が見られ、語彙の量と質の充実が十分でない様子がうかがえる。
- 様子や気持ちを表す語句の類義語等をいくつか書くことができるかを問う単元前テストは、次のような結果であった。

類義語等を書くことができた人数（人）					
	歩く	食べる	太陽	嬉しい	悔しい
0語	10	10	15	22	27
1語	4	8	5	5	0
2語	11	7	5	0	0
3語	0	1	2	0	0
4語	2	1	0	0	0

1語も書くことができていない児童が多く、知っている語句の数が少ないことや語句相互が関係付けられていないことが分かる。

指導にあたって

語彙の量と質の充実を図るために、本単元では次のような手立てを行う。

①「ことばへんしんシート」の活用（※ 6 参考資料参照）

語句の量を増やすことと語句の仲間分けや関係付けをすることを一体的に行うために、「ことばへんしんシート」を活用させる。このシートを活用して、ある語句について、自分が知っている語句や本で調べた語句を「言い換えられる言葉」（換言）と「くつつく言葉」（修飾）に分けて、関係付けながら語句を集められるようにする。

②指導者のコメント

様子や心情を詳しくする部分に着目させ、語句を集め、言い換えたり、付け加えたりさせるために、指導者が児童の作成したお話づくりメモ（※ 6 参考資料参照）に「他の言い方はないかな。」や「どんなふうにしたのかな。」「そのとき、〇〇はどんな気持ちだっただろう。」などのコメントを書き込んで児童に返す。それにより、よりふさわしい語句を選択・吟味することができるようにする。

4 単元の目標と評価規準、単元指導計画（全12時間） ※本時は太枠

単元の目標		様子や気持ちがよく伝わるように、語句を言い換えたり、付け加えたりして、表現を工夫して、簡単な物語を書くことができる。					
評価規準	知識・技能	自分がこれまで文章の中であまり使っていなかった語彙に気付き、お話の場面の様子や人物の気持ちがよく伝わるように語句を使って物語を書いている。（１）オ					
	思考・判断・表現	「書くこと」において、読み手に様子や気持ちがよく伝わるかという視点で、文章を読み返し、よりよい表現に直している。B（１）エ					
	主体的に学習に取り組む態度	進んで、読み手に様子や気持ちがよく伝わる物語になるように、自分がこれまで文章を書くときに使っていなかった語句を使って表現を吟味し、学習課題に沿って、物語を書こうとしている。					
次	時	学習活動			知	思	主
一	1	指導者が作成したグッドモデルとバッドモデルの物語を比較して、物語創作における表現の工夫の必要性に気付かせ、本単元の学習課題を設定し、学習計画を立てる。					○

二	2 3 4	場面①②（起・承）について、場面の様子や人物の気持ちを想像し、語句を言い換えたり、付け加えたりして、よく伝わるようにお話づくりメモを作る。	○		
	5 6	場面③（転）を想像し、お話の構想を立て、お話づくりメモを作る。			
	7	場面③のお話を、よく伝わるように書く。	○		○
	8	場面③の様子や気持ちを表す語句に着目して、推敲する。		○	
三	9	場面④（結）について、場面の様子や人物の気持ちを想像し、語句を言い換えたり、付け加えたりして、よく伝わるようにお話づくりメモを作る。	○		
	10	場面①～④のお話を推敲しながら、絵本を書く。		○	
	11	友だちと作品を共有し、感想を伝え合う。			
	12	単元の学習を振り返る。			○

5 本時の学習（9／12）

（1）本時の目標

場面④について、示されたお話の語句を言い換えたり、付け加えたりするなどして、様子や気持ちがよく伝わるお話づくりメモを作ることができる。

（2）本時の評価規準

お話の場面の様子や人物の気持ちがよく伝わるように、語句を言い換えたり、付け加えたりしてお話づくりメモを作っている。

（3）学習展開

時間	学 習 活 動	指導上の留意事項 ◎評価規準（評価方法）
5	1 本時の学習課題を確認する。	
	場めん④を もっと よく つたわる お話に しよう。	
20	2 学習の手順を確認する。	○ 「学習の手順」、「考えるヒント」（（4）板書計画参照）の掲示物を板書に貼って、確認する。
	3 場面④のお話を読み、語句を言い換えたり、付け加えたりして、よく伝わる文章を考える。 <u>個人思考</u>	○ 場面③とのつながりも考えて、語句を吟味・選択させるようにする。 ○ 指導者は、児童が書いたお話づくりメモを見ながら、「どうしてその語句を選んだのか」「他の言い方で、よりふさわしいものはないか」など声をかける。 ○ 自分が知っている語句や本や教科書から表したい語句の仲間の語句を集めさせる。
	(1) 伝わりやすくしたい部分を見付ける。 (2) 自分で語句を思いつくものは、それを、お話づくりメモに書き込む。思いつかないものは、本や教科書から、語句を集め、ことばへんしんシートに書く。 (3) 集めた語句から、場面にふさわしい語句を選択する。 〈期待する児童の反応〉 ・ 家に帰るとき、早く帰りたい気持ちだと思うから、「歩いて」ではなく、「スキップして」が良い。 ・ 「ただいま。」をどんな声で言ったのか書かれていないから、「大きな声で」とか「元気な声で」とか入れると良い。	◎ <u>知（オ）</u> お話の場面の様子や人物の気持ちがよく伝わるように、語句を言い換えたり付け加えたりしてお話づくりメモを作っている。（お話づくりメモ）
15	<u>全体共有</u>	○ 同じ場面であっても、それぞれ使う語句が違うことに気付かせ、多様な語句に触れさせる。 ○ 語句を付け加えることで、よく伝わる文章になることを実感できるように、指導者が評価のコメントをする。
5	4 本時の学習を振り返り、次時は、絵本に文章を清書することを確認する。 〈期待する児童の反応〉 ・ 言葉を付け加えて、よく伝わるお話になったので、これからも、言葉を付け加えたい。	○ 本時学習での様子を具体的に評価したり、単元全体における次時の位置付けを示したりして、学習意欲が持続するように声をかける。

(4) 板書計画 ※「学習の手順」、「考えるヒント」は、掲示物である。お話づくりメモは、児童と同じメモを拡大して掲示し、全体交流の際、児童の意見をマーカーで書き込んでいく。

学習の手順

④ 場面④をもっとよくつたわる お話にしよう。

考えるヒント

よくつたわるお話づくりのポイント

① 会話文(かきかき)を入れる。

② ようすをあらわすことばを入れる。

③ 気持ちをあらわすことばを入れる。

ようすをくわしくあらわすことば
どうやってくわしくする?

見えるもの(目)
…かたち、色、大きさなど

聞こえるもの(耳)
…音、声など

におい(はな)
…においなど

あじ(口)
…食べものなどのあじなど

かんじよく(手、足、はだ)
…さわったかんじなど

これらをじっくり考えてみよう!

お話づくりメモ

教科書の挿絵

ただいま。

ただいま。

こうして、きつねの子とくまの子は、
歩いてぶじに家に帰ることができま
した。二人は、うれしい気持ちになリま
した。二人は、
「ただいま。」
と、ささやき
ました。
そして、おやつを
食べました。

6 参考資料

①ことばへんしんシート

ことば へんしん シート

言いかえられる ことば	くつつく ことば

例 ことば へんしん シート

言う

言いかえられる ことば	くつつく ことば
しゃべる	大きな声で
話す	すらすらと
答える	ぼそぼそと
さげふ	はっきりと

②お話づくりメモ (場面④)

お話づくりメモ④

教科書の挿絵

ただいま。

ただいま。

こうして、きつねの子とくまの子は、
歩いてぶじに家に帰ることができま
した。二人は、うれしい気持ちになリま
した。二人は、
「ただいま。」
と、ささやき
ました。
そして、おやつを
食べました。

例

教科書の挿絵

ただいま。

ただいま。

こうして、きつねの子とくまの子は、
歩いてぶじに家に帰ることができま
した。二人は、
「ただいま。」
と、ささやき
ました。
そして、おやつを
食べました。